

小中一貫 校市長が西小倉中に決定と突然記者会見 同意のない一方的発表に地元連合自治会が抗議

松村宇治市長は、8月31日の記者会見で、「西小倉地域の3小1中を統廃合し、現在の西小倉中学校に小中一貫校を建設し、2026年4月を目途に開校する。「9月議会に設計費の補正予算案を出す。(洛タイ新報記事)」と発表しました。

倉地域小中一貫校開設準備協議会」が設置されました。

「協議会」はこの間4度開催され、様々な意見が出されるなか、結論を出すには至っていませんでした。

市長は、未だ協議中にも関わらず、市側から協議会への事前連絡もせず、地元の同意を得たと記者会見しました。この会見について、9月2日に地元の連合自治会から、「協議会に何の相談もなく、さらに『協議会が了解した』と事実と異なる会見を突然されたことに抗議する。次回の協議会で開校場所を決めていく方向で終了したのに、到底理解できない。謝罪と訂正を求める」との内容の「一方的な市長会見に対する抗議文」が提出されました。

連合会長は、「市で勝手に開校場所を決めるなら協議会の意味はない。『西小倉中学校でいいですか』という意向を求める場面はなかった」と指摘したと報道されました。

市は、西小倉地域に一貫校を建設するとしていましたが、開校場所、時期は未定でした。市教委は、開校場所の検討を進めたいとし、西小倉連合自治会に「協議会」設置を要請。今年2月に「西小



市民参加・協働を掲げるも実態は市民置き去り

地元が抗議文を提出した同日の9月2日、市議会文教福祉常任委員会が開催され、西小倉の小中一貫校について、開校場所、時期は報告されましたが、補正予算に関する報告はありませんでした。

委員会の質疑で、党議員が「『市長会見で地元協議会が西小倉中学校で小中一貫校を整備することに同意した』と報道されているが、協議会で同意があったのか」と追及すると、市教委は「協議会に色々意見はお聞きするが、最終的には市で決めるということ」と答弁しました。さらに、党議員は「地元協議会では、次回の会議で一定意見をまとめなければいけないと思っていたら、いきなり市教委が決めて、何の連絡もなく市長記者会見で知った」と地元の受止めを示しました。そして、学校を

つくるにあたって、地元意見に聞くからには、一番の基本は信頼関係だ。それを壊すような事を市教委がおこなったと指摘し、「市民参加・協働と言うが、こんなやり方は市民を利用しているだけ。形だけの(地元)協議会で極めて悪質だ」と厳しく追及しました。

市の意思決定について、党議員は、「教育委員会の会議で議決を取ったのか」と追及、市教委は「議決を取ることはしていない」と答弁しました。

手続きも疎かにし、地元同意を得たと事実と異なる説明による一方的な発表は、市民無視、市民置き去りの強権的なやり方だと言わざるを得ません。政治・行政は、市民に対し丁寧に説明を尽くし進めるべきです。

